

官民連携の新たなまちづくり 「道」を切り口に 恵庭の魅力をアピール



えにわシーニックプロジェクト

ENIWA SCENIC PROJECT

「シーニックパイウェイ北海道」の制度化に向けた検討が本格化し、道内の各自治体でも、この事業への関心が徐々に高まりをみせていた2004年春、「恵庭の特徴である、水や緑、花、人などの豊かな資源を再認識し、さらに魅力を高めまちの活性化につなげたい」との思いから、当時、17名の市民が参加して「えにわシーニックプロジェクト」を立ち上げました。

シーニックとは「景観」、パイウェイは「わき道・寄り道」を意味し、地域住民と行政が連携し、沿道の環境整備などを通じて「美しい景観づくり」「活力ある地域づくり」「魅力ある観光空間づくり」などをめざしてしており、全国に先駆けて国土交通省（北海道開発局）が進めている事業です。

道内では3つのモデルルートが認定され、恵庭エリアでは、現在、漁川と国道36号が交差する場所に建設が進められている「道の駅花ロードえにわ」を起点に、優れた景勝地として年々評価が高まっている恵庭溪谷（盤尻地区）を縦貫する「道道恵庭岳

公園線」が、千歳～ニセコを結ぶ「支笏洞爺ニセコルート」に指定されました。

同プロジェクトでは、これを機に、花に囲まれた庭をステージにした「ガーデンコンサート」、食や観光などをテーマに「シーニック連携フォーラム」、恵庭の玄関口を花で飾る「ウエルカムフラワーロード」など、関係団体とも連携しながら多彩な取り組みを手掛けてきました。

最近では、市外のガーデニング愛好者などから要望が寄せられていた「恵み野Hana(花)マップ」の作成やオーナーとの会話時間をセットした「恵み野ガーデニングツアー」に関わるなど、その取り組みは好評を得ています。

中でも、個人宅が自主的に行っている恵み野のガーデニングをテーマにしたイベントの企画・運営などは、行政主導という手法では馴染みにくいものですが、同プロジェクトが、地域でこれまで築き上げてきた人と人のふれあいや信頼感によって実現できたものといえます。ここに市

民参加による、官民連携の新たなまちづくりのあり方が端的に示されているのではないのでしょうか。

同プロジェクトは、今後も市民の積極的な参加・協力を得ながら、「道」を切り口に、恵庭の景観資源・地域資源を活かした、恵庭市の新しい魅力づくりに貢献していきたいと張り切っています。



柏木川プロジェクト

島 松小学校のすぐ脇を流れる柏木川は、柏木、西島松、中島松を流れ下り、島松川に合流する延長20キロ弱の河川です。流域には今も豊かな緑が残り、野鳥のすみかとなっています。島松小学校では教師と父母が連携し、子どもたちの健やかな成長を願い、この柏木川で自然体験学習を行っています。

きっかけは1996年、国土交通省が立ち上げた環境学習「水辺の楽校プロジェクト」。地域住民や市民団体、教育機関などが連携し、子どもたちを対象に川を活用した自然学習を推進しようというもので、目の前が川という島松小学校はまさに条件的にぴったりであり、数年後に実施が予定されていた総合学習の格好のテーマにもなるとして、取り組みが決定されました。

学習の現場となる柏木川の状況をきめ細かく把握するため1999年5月、島松小学校のPTAを中心メンバーとする「柏木川プロジェクト」

が結成され、教師や親が実際に川に入って歩くなど、何度も調査が繰り返されました。その結果を詳細に記した柏木川マップが作成され、実際の学習プログラムを構成するための基礎データとなりました。

新しい教育課程の一環として総合学習が始まった2002年の夏、いよいよ柏木川における初の自然学習もスタートしました。父母たちが見守る中、ライフジャケットを身に付けた教師や生徒たちが川に入り、手製のイカダなどによる水遊びを楽しむとともに、水辺の生物の調査なども行われました。

この自然学習は現在も継続されています。今後は子どもたちが実施した水質調査などの結果を壁新聞のような形にまとめ、市内のショップなどに協力を得て張り出すなど、情報発信の試みも計画されています。教師と父母の連携のもとで行われている島松小学校の自然学習は、全国からも高い評価を得ています。

先生と父母、地域が連携して実現した子どもたちの自然体験学習。



第4期
恵庭市総合計画
概要版



発行
北海道 恵庭市
平成18年3月